

たいむ

12月号 [H27.12.1 発行]

学生広場「あそべ屋」やっています！

10月より、月2回ずつ、石井ゼミ（短大「保育方法演習」履修学生）による「あそべ屋」という活動が行われています。

この活動は、学生が主体的に広場の運営を行い、その過程で「計画、実践、評価、改善」の過程や意味を学ぶことを目的としています。しかも、通常の実習では体験できない、学生が企画したものをそのまま行うこと、保護者へのかかわりや幼稚園・保育園に通っていない子どもたちとのかかわりの経験ができるので、学生にとっては大変なこともあります。かけがえのない体験ができるため、昨年からのような形で行っています。



活動の名前から、プログラムの内容まで学生が考えて行っています。今年の履修者は、10名で、そのうち9名が参加しています。とにかくみんなで役割を決めてがんばろうということで、リーダー（計画作成者）は活動ごとに変わり、役割分担も変えています。誰もが一度は活動の責任者になるようにしています。

本来、この授業は、火曜の1～2限に設定されているため、本来午前で終る授業なのですが、あそべ屋の学生スタッフたちは、9：20～17：00過ぎまで、気を抜かずに活動を行っています。はじめは、連絡や調整などが上手くいかず（役割が明確ではなかったり、LINEで連絡して調整が不十分になったり）、今どきの学生が「苦手」とする部分が出てしまいました。しかし、活動を経験するうちに、計画を練り、きちんと確認し、徐々に意識も変化してきました。今まで意見をほとんど言わなかった学生も意見を言うようになり、少しの時間と経験ですが、変化がみられました。（石井章仁）

■これまでの活動

日程	おもな内容	参加者
10月13日	小麦粉粘土；保育実習で実際に行った小麦粉粘土づくりをしました。いろいろな色の粘土を混ぜたり、形づくったりしました。	保護者15名/ 子ども27名
10月27日	ハロウィーン（校内探検）；暗い校内を探検し、スタンプラリーをしました。なぜか小さい子の方が怖がっていませんでした！	保護者24名/ 子ども37名
11月17日	忍者ごっこ（リズム室）；橋渡りや分身の術など、色々な修行をして、忍者になりました。免許皆伝の印として光る手裏剣を手に入れました。	保護者19名/ 子ども27名
11月24日	運動会（リズム室）；大玉ころがしや玉入れ、ふうせん送りや電車リレーなどをしました。	保護者21名/ 子ども30名
今後の予定	12月8日（制作遊び）クリスマスリースや松ぼっくりツリーの制作、的あてゲームなどをします。 12月22日（クリスマス会）/1月19日（もちつき）/ 1月26日/2月2日（まめまき）/2月16日	



■参加学生の紹介（他己紹介）

荒井優奈：目力（めぢから）がだれよりもすごく、とても優しく、積極的な子です。
 伊藤加菜：ジャニーズが好きで、クールに見えて意外に甘えん坊な、背の高い女の子です。
 江口愛花：いつもにこにこ笑顔で、みんなに気をつかえる、優しく面白い人です。
 大野広和：メガネが良く似合っていて、ゲームが好きな男の子です。
 大宮優一：茨城県の鹿嶋市出身で、バスケットとゲームが好きな男の子です。
 君塚友美：髪がクルクルしていて、絵本に出てくるようなとっても可愛い女の子です。
 高橋楓：自分の事よりも人の事を考え、親身になって話を聞いてくれるとても優しい人です。
 豊田真央：細くて美人で、優しい人です。そして、とても行動的です。
 平井美夢：皆がやらないような事も積極的にやってくれる優しい人です。
 宮本花梨：次回のあそべ屋のリーダーです。何でも聞いてください！！

■ ♪ 福祉の音プロジェクト公開講座 ♪ ■



11月6日(金)・11月27日(金)に、本学教員の明石現先生(ギタリスト)とゼミ生による「福祉の音プロジェクト公開講座」が短大リズム室にて行われました。

明石先生の優しい声で、聾者も音楽を楽しめるということ・手話にも方言があること・南米のベネズエラでは「奇跡の音」という取り組みをしていることなど、とても興味深いお話をしてくれました。また、明石先生の素敵なギターの音色に合

わせて、お母さん方にも学生たちと一緒に手話合唱をしていただきました。(耳に残る歌詞や11弦ギターの癒されるメロディー・直訳ではない印象的な手話です。たいむにてCDを聴くことができますので、お気軽にスタッフにお声かけください。)

お母さん方が音楽を楽しんでいる間は、学生たちが交代で子どもたちと折り紙やブロックなどで遊んで過ごしました。講座の途中には、親子で楽しめるふれあい遊びや体操・パネルシアター・ペープサートなどを企画してくれ、子ども・大人みんなが一緒になって楽しめる時間もありました。子どもたちは学生や場の雰囲気慣れてくると、明石先生や学生の手を引いて遊びに誘う場面も見られ、みんなの笑い声が響いて終始賑やかな空間となりました。



明石先生のソロギター演奏では、懐かしい唱歌「七つの子」「さくら さくら」や馴染みのあるクラシックの曲を披露してくださり、プロの素敵な音色にお母さん方も聴き入っていました。また、1才のYくんは遊びに夢中になっているのかとっていると、明石先生を見ながら笑顔でパチパチと拍手をしていました。遊んでいる時でも自然と音楽が耳に入ってきているのですね。

お母さん方からは、子どもが騒いで音楽の邪魔にならないか心配する声も聞かれましたが、それも想定しての企画なので迷惑ではありません。元気に遊んでいた子どもたちにも素敵な音色は届いていました。また、学生たちにとっても、子どもたちやお母さん方とふれあえる貴重な時間となり、沢山の学びに繋がります。今後もぜひ参加していただけると嬉しいです。

当日まで、明石先生と人が少なかったらどうしようと話をしていたため、参加してくださった方々から、「手話が楽しかった」「素敵なギターだったので癒された」「学生さんたちに遊んでもらえて助かった」など、お言葉をいただき嬉しく感じました。私自身もこの講座から感じたこと・学ぶことが沢山あり、有意義な時間となりました。参加してくださる方の癒しの時間や、新しい学びの場・お子さんに音楽を身近に感じてもらう機会などになるよう、たいむでも企画していけたらと思います。(本田)



■ 附属幼稚園で遊びました！ ■



11月11日（水）に附属幼稚園園庭で遊びました。当日は天候が心配されましたが、天気が良くとても過ごしやすい1日となり、20組48名の方が遊びに来てくださいました。

砂場ではお店屋さんごっこ・砂山作りなどをしていました。近くのテーブルの上に沢山の料理を並べ、子どもたちがお客さん（お母さん）にご馳走していました。お母さん方も楽しそうでした。その他にも、アスレチックに付いている手作りのロープのブランコに遊ぶ子どもたちや、広い園庭でバランスボールを投げたり転がしたりしながら元気いっぱい走る年少児・《めいとくのもり》を散策する年長児と、どの子も伸び伸びと遊んでいました。また、1才児の子どもたちは落ち葉に興味をもち、アスレチックの小さな部屋にせっせと落ち葉を運んでいました。途中から、お母さんが落ち葉を拾ってきて、子どもへ渡し、それを子どもたちが小さな部屋に落ち葉を敷いていく（集めていく）という形に変わっていききました。落ち葉をバケツリレーのようにして運ぶようになったことで、子どもたちはお母さんと一緒に遊びとても喜んでいました。

しいの実を拾ったり砂あそびの料理に落ち葉を使ったりと、多くの子が秋の自然に触れながら遊ぶ姿が見られました。なかでも、落ち葉を使った遊びという何気ない遊び一つとっても、子どもたちが自分で考えて行動を起こしているのですよね。そう思うと《子どもは遊びの天才》というように、子どもの創造力や発想力はすごいものだと感じます。そして、どんなに小さな子どもでも、遊びの中や色々な人たちとかかわることで、日々沢山のことを学んでいるのだと感じます。安心できる人が近くで見守ってくれていることこそが、子どもたちの行動力に繋がっているのではないのでしょうか。

前回（5月）と同様に、あっという間に時間が過ぎてしまいました。天気にも恵まれ、広い園庭に響き渡る元気な声は大人もパワーをもらえますね。次の機会にも、みんなで元気いっぱいに遊びたいです！



■ わらべうたサロン♪ ■



11月20日（金）に、本学教員の古山先生による《わらべうたサロン》があり、今回は学生（1年生）と一緒に参加しました。普段のたいむは2年生とのかかわりが多く、1年生の来室は少ないのですが、来室すると学生たちは室内の環境設定をじっくりと見たり、玩具にふれたり興味津々の様子でした。また、7ヶ月・8ヶ月の赤ちゃん・3才の子どもとのふれあいにも喜び、親子の方々と一緒に楽しそうに参加していました。

泣いてしまった赤ちゃんを学生が皆で頑張ってあやそうとする姿に、お母さんは微笑みながら優しく見守ってくださいました。終了後には初めて参加してくださった方も、お茶をしながら古山先生と子育ての話をして、ゆったりと過ごされていました。これを機に、1年生もたいむに遊びに来てくれると良いなと思います。（本田）

次回は12月18日（金）です。どうぞお気軽にご参加ください。

■ 職場体験にきました！ ■



11月25日（水）・26日（木）に、おゆみ野南中学校の2年生3名がたいむに職場体験にきました。

25日は短大リズム室にて、平均台や橋（はしご）・すべり台・ボールプールなどを用意して遊びました。2・3才の子どもたちは、身体を沢山動かして元気いっぱい。また、リズム室に置いてあるピアノや和太鼓・木琴を、お母さんや中学生のお姉さんたちと一緒に

に弾いたり叩いたりして楽しそうでした。1才の子どもたちも周りの物に興味津々の様子で、室内を散策したり和太鼓や木琴を叩いたりして、とても可愛らしかったです。

26日は、中学生に「おとととと このくらい」というパネルシアターを披露してもらいました。初めて自分が子どもやお母さんたちの前で演じる側となり、とても緊張していました。



しかし、いざ始まるとスタッフと一緒に覚えたばかりの手遊びをし、パネルシアターの時にはぎこちないながらも、子どもたちに問いかけ、やりとりをする場面がありました。子どもたちの面白い答えに皆が笑い、お母さん方もパネルシアターを子どもと一緒に楽しんでいただけようでした。実は、こちらでパネルシアターを用意していたこともあり、前日からの練習となっていました。ですから、中学生たちには申し訳ない気持ちでしたが、たった1日で頑張ってくれたことに、私たちスタッフも嬉しくなりました。お母さんや図書スタッフからも「上手だったね」「楽しかったよ、ありがとう」などという温かいお言葉をいただきました。

たいむでは、中学生の職場体験の受け入れとして、「次世代の子育てをする人の育成」ということを目的の一つとしています。実際に職場体験に来る中学生たちは、幼稚園や保育園との違いに戸



惑い、なかなか子どもたちと遊んだり話をしたりすることができません。これは学生にも当てはまるのですが、お母さんが一緒にいるということで、更に緊張してしまうようです。スタッフが子どもたちと中学生の間に入り、かわりをもてるように配慮しながら見守るようになると、折り紙や切り紙をしてプレゼントする微笑ましい光景も見られました。今回の中学生からは、「0～3才の小さい子どものかかわり方が難しい」ということを聞きました。自分の思いを言葉にして伝えることができない

年齢の子もいますし、子ども一人ひとりのかかわり方は異なるので確かに難しいですね。保育の道に懂れているということだったので、これからの彼女たちの成長も楽しみです。（本田）

■ 最近のたいむは・・・？ ■

この頃、たいむの子どもたちは学生だけにとどまらず、教職員とかかわる機会も増えているように感じています。廊下を通る教職員を子どもから遊びに誘ったり、一緒に校内を散歩に行ったりすることが時々あります。また、なかには、子どもたちの名前を覚えていて、「〇〇ちゃんだ！おはよう」とにこやかに会話をしていることがあります。こちらも笑ってしまうようなやり取りをしていて、とてもアットホームな雰囲気です。

3才のTくんは、大好きな車の玩具で遊ぼうと、たまたま廊下を通りかかった男性職員に「一緒に遊ぼう」と誘いかけていました。（どちらがミニカーをより遠くまで走らせられるか。という遊びでした）職員も「お！これは〇〇だな？（車の車種）」とにこやかに会話をしながら、T



くんとのやり取り

を楽しんでいました。「また遊ぼうね！」という約束をしてお別れをした2人でした。その後の職員のつぶやきですが、「自分の子どもの時みたいだな」と笑っていました。校内でTくんを見かけて時にも、優しく声をかけてくれていました。教職員とのかかわりについては、ゼミや授業でのかかわりとも大きく関係しているように思います。そして、それは、保育の学校だからこそできることであるとも思います。



こうした沢山の人たちとのかかわりや繋がりなどにより、温かく子どもたちを見守ってくれる仲間が増えたように感じます。ミテテ+でお預かり中の子どもたちのことも、周りのお母さん方が気にかけてく

ださり、「みんなで子育て”を”しているのだなと嬉しくなります。

遊びに来てくださったお父さんは、ミテテ+（一時保育）でお預かり中の5ヶ月の赤ちゃんKちゃんを抱っこしてくださり、「かわいいね。自分の子どもは大きくなっちゃったから懐かしいね。」「もうちょっと抱っこしていても良いですか？」と、とても穏やかな表情でした。また、「私、エルゴ（ハワイの抱っこひもメーカー）を使ったことがないから使ってみたい！」というお母さんもいらっしゃり、たいむで初エルゴ体験をされました。（本田）



たいむでは、お母さん方の「こんなことをやってみたい」などの楽しい企画などもお待ちしております（もちろん、スタッフもお手伝いさせていただきますので、ご安心ください）。皆でサポートし合い、楽しい時間を過ごせるようにしたいです。